

小学校だより

2021年
3学期号
2021.3.17

Vol.
146

INTERVIEW

校長先生が、
図工専科の若松先生、
イミック先生に聞きました。

梶小の造形教育

Q 造形教育に携わるようになったきっかけを教えてください。

若松先生

学生の頃に、掛川市の「ねむの木こども美術館」に行き、子どもたちの素朴だけれども独特で美しい作品に驚き、教員になったら自分も子どもたちの表現活動の手助けができるといいなと思ったことがきっかけです。

イミック先生

幼少期は、絵が好きな父と家庭で絵を描いたり木版画をしたり、造形活動が生活の一部でした。その後東京の美術大学（偶然にも若松先生と同じ大学！）に進み、民間企業への就職を経て、絵画教室の講師を経て、梶小で働くようになり、二十五年以上がたちました。



▲イミック先生の授業風景



▲若松先生の授業風景

Q 図工の時間の本校の子どもたちはどのような様子ですか？

イミック先生

昔に比べて家庭での造形活動の機会が少ないのか、頭の中のイメージを自由に表現するのが難しい子もいるようですが、活発に質問してくる子、静かに作品に取り組む子、いろいろな子が互いを認め合いながら、図工の時間を楽しくしてくれているようです。

若松先生

題材について説明し終わらないうちに製作に取りかかる子、反対にじっと考え込んでいる子。スタートや製作過程は様々ですが、自分が納得するまで集中して取り組むことができる子が多いと感じます。

（若松先生の作品）

（イミック先生の作品）



Q 子どもたちにメッセージをお願いします。

若松先生

思い通りにできないときに、考えたり、手探りでやってみたりした経験は次の活動に生きます。まずは思ったことをやってみましょう！

イミック先生

予想を超えるアイデアを出してくれたり、長く続けていると忘れがちな「表現することの喜び」をいつもみなさんに教えられたりしています。ありがとうございます！

Q 最後に一言お願いします。

イミック先生

自分を素直に表すことで、共感してくれる仲間に出会え、道が開けていくと思います。

若松先生

「図工が好き」と言ってくれるのが一番うれしいです。

特集

一年生のみんなから卒業する六年生への手紙

委員会報告

P.4

学期の行事

P.5

学年トピックス

P.6

P.17

PTA

P.18

P.19

三学期の思い出

P.20

P.2
P.3